

個人質問

議会事務局
処 理 欄

令和5年11月15日 9時14分 受付
質 問 順 位 第 12 番

武豊町議会議長 青木 信哉 殿

武豊町議会議員 とば ひさし

一般質問の通告について

令和5年第4回武豊町議会定例会において、次のように質問したいから通告します。

質 問 事 項	質問の要旨(具体的にご記入願います)
1. ふるさと納税を活用した返済不要の奨学金制度の設立について	【趣旨説明】 大学に通いたいけれど、経済的な理由で通うことをあきらめてしまう子どもがいます。 日本学生支援機構の給付奨学金を利用できればいいですが、家計基準、学力基準を満たさなければ利用することはできません。 また、家計基準を少しでも超えてしまうと、給付型奨学金(第Ⅰ区分:給付91万円+授業料免除・減額70万円)を受けることはできません。 無利子型の奨学金を受ける場合でも、奨学金なしで大学などへ進学した子どもと比べ、数百万円の借金を負って社会人をスタートすることになります。 奨学金の返済で苦しむ人が社会問題となっており、返還が遅れると延滞金も発生します。 また、現在では国民負担率は伸び、平均年収前後の中流世帯の生活が苦しく、大学資金まで出す余裕がなくなっています。 そこで、中流世帯の武豊町の子どもに向けて、武豊町独自の返済不要(給付型)の奨学金制度を設立することが必要です。 生活困窮世帯に対する支援は手厚い傾向にありますが、少しでも基準を超えた中流世帯が一番苦しい傾向にあるからです。 経済的な理由で大学に行くことをあきらめていた子どもが、大学に通いたい夢を叶えることができます。 また、返済不要の奨学金があるなら、武豊町で子育てをしたいと思う家庭を増やすことができます。武豊町の子育て世帯を増やすことができれば、返済不要の奨学金を上回る税収を確保することもできます。 少子高齢化で43,000人から36,000人にまで人口減少が予想されている武豊町だからこそ、早めに少子化対策を行うことが重要です。 「知多半島で一番子育てしやすい町」を目指し、独自の奨学金制度で子育てに手厚い町をブランディングすることが必要です。 しかし、武豊町の財政を考えると、奨学金が継続できる財源を考えることが必要です。そこで、ふるさと納税を活用した武豊町独自の返済不要の奨学金制度を設立したいと考えています。 返済不要の奨学金を応援したい人からのふるさと納税を伸ばすことで、返済不要の奨学金で支援できる子供の数を増やすこともできるようになります。 また、ふるさと納税の使用目的が明確となり、子供に優しい武豊町であることを、ふるさと納税からもアピールすることができます。 武豊町はこれまで企業からの税収がある反面、産業や観光などが十分に育たないまま成り立ってきました。 以下は、ふるさと納税を活用した奨学金の制度案となります。 【制度概要】 武豊町在住の大学に通いたい子供を対象に「年額最大50万円×通学年数」で、返済不要の奨学金を支給する。

【対象の学校】

大学、大学院、短期大学、専修学校

【対象者】

- ・ 武豊町に 1 年以上居住する生計維持者の子ども、及び、準ずる方
- ・ 学業に真面目に取り組んでいる
 - ↳ 進学前：5 段階評価で平均 3.5 以上が目安
 - ↳ 進学後：1 年生は進学前と同様、2 年生以降は単位を一定数取得、もしくは、成績が上位 1/2 以上とする
 - ↳ ただし、奨学金の利用が必要な理由を説明し、面接でアピールできる」場合、上記条件に当てはまらなくても、返済不要の奨学金を支給（遠方の場合は、Zoom など面接を可能とする）。
- ・ 日本学生支援機構の給付型奨学金を受けている場合は対象外

【基金運用】

1 年の新規申し込みで 1,000 万円程度（年額 50 万円×20 人想定）
大学に 4 年間通う想定で 4,000 万円程度が必要

* ふるさと納税額が増えれば上限金額、対応人数を増やせるので暫定

【基金源】

- ・ ふるさと納税
 - ↳ ふるさと納税は子育て支援に使うこととし、ふるさと納税のブランディング、目的の明確化を図る
 - ・ 奨学金を用途目的としたふるさと納税
 - ↳ クラウドファンディング等を利用した奨学金プロジェクト
 - ↳ 用途目的を返済不要の奨学金制度など
 - ・ 企業版ふるさと納税
 - ↳ 子供の支援に手厚い企業を中心に、返済不要の奨学金に協力したブランディングとして基金を集める
- ただし、当面はふるさと納税だけだと足りないのでは、町の補填が必要

「ふるさと納税」を活用し、返済不要の奨学金制度が「ふるさと納税」だけで継続できればと考えております。

武豊町の奨学金利用者が学校を卒業したら、「ふるさと納税」を中心とした武豊町の奨学金制度への積極的な応援をよろしくお願いいたします。

【選考方法】

- ・ 各種書類提出（申請書、成績証明書、家庭状況調書、世帯の収入証明書、応募理由を 1,000 文字程度）
- ・ 応募多数の場合、書類提出者を面接を行うことで、本当に奨学金を必要としている子供に支給する

上記を踏まえて、以下の質問をいたします。

【質問事項】

- ① ふるさと納税制度における寄附額と返礼品の現状は
- ② ふるさと納税制度による寄附金を増やすための新たな取組や今後の展開は。
- ③ 返済不要（給付型）の奨学金制度を設立し、大学に通いたいけど通えない子ども達に夢を与える施策を講じている自治体があるが、武豊町として導入の考えはあるか。
- ④ ふるさと納税を活用した返済不要の奨学金制度を設立することは有効的と考えるがどうか。

個人質問

議会事務局 処 理 欄	令和5年11月15日	9時14分 受付
	質 問 順 位	第 1 2 番

武豊町議会議長 青木 信哉 殿

武豊町議会議員 とば ひさし

一 般 質 問 の 通 告 に つ い て

令和5年第4回武豊町議会定例会において、次のように質問したいから通告します。

質 問 事 項	質問の要旨(具体的にご記入願います)
2. こども誰でも通園制度の対応について	【趣旨説明】 こども誰でも通園制度とは、月一定時間までの利用可能枠の中で、就労要件を問わず時間単位等で柔軟に利用できる新たな通園給付のことです。 2024年度の試行的事業では、補助基準上一人当たり「月10時間」を上限として行うことを検討されており、一時保育とは別枠で利用できる見込みです。また、費用に関しては補助金が出ると想定しています。 こども誰でも通園制度について、以下の質問をいたします。
	【質問事項】 ① 武豊町として「こども誰でも通園制度」を実施する予定はあるか？ ② 現状「こども誰でも通園制度」を実施した場合、武豊町として設備、保育士の数などどんな問題があるのか？ (中間 削除)